

GK情報レポート

【2014年発行】

vol. 39

新年号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents


1. 新年のご挨拶 代表取締役社長 権田 源太郎
2. 納期遵守と品質向上について
3. AZX612 マグネシウム合金国土交通省の不燃材認定取得
4. 国際マグネシウム展 in 東京ビックサイト 2013 に出展
5. マグネシウム講演会のご報告
6. 相模原市について Part3
7. GKギャラリー『第116回 GK会』
8. 相場情報 『2014年第1四半期見通し』

皆様でご覧下さい。

回覧印										
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～38）をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社



1. 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

2013年の日本経済は、一昨年末に誕生した安倍総理のアベノミクス政策「三本の矢」により大きな転換を遂げました。一本目の矢である異次元の金融緩和と、二本目の矢である思い切った財政出動により市場参加者のマインドを大きく好転させ、株式相場は50%上昇し、対ドル円相場は25%円安になりました。大手企業の業績は大きく好転しています。


アベノミクスの肝心な三本目の矢である規制改革を含む大胆な成長戦略は、まだ実行できるか不透明ですし、当社のような中小企業の景気回復はまだ進んでない状況ですが、2008年9月に起きたリーマンショック以降では最も期待できる状況になってきたといえると思います。

そうした中であって、当社はお客様のお役にたてるようにさらに努力を続けてまいります。高品質の達成と納期を確実に守ることを実行し、さまざまなご要望にもお応えしていきたいと考えております。

伸銅製品とそれに関係したさまざまな加工品、マグネシウム製品とそれを用いたさまざまな加工品や部材など、お客様のニーズに合わせたサービスを提供してまいります。

今後とも、変わらぬご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2014年1月吉日
権田金属工業株式会社
代表取締役社長
権田源太郎



2. 納期遵守と品質向上について

新年あけましておめでとうございます。

旧年中はいろいろとお世話になりました。ありがとうございます。

2013年10月1日に、営業部長兼製造部長に就任してあっという間の3カ月が過ぎました。今回紙面を借りてのご挨拶になりますが、本年もよろしく願いいたします。

2014年の当社の活動テーマは『納期の遵守』・『品質の向上』です。今までお取引各社様のお声を聴くに当たり、納期・品質へのご要望を痛切に感じている次第です。

現在当社では私が営業部長と製造部長を兼任し営業部と製造部の調整役となり、納期の遵守に対応すべく納期優先型の工程計画を作成し納期遅れの解消を目指しております。

品質向上に対しましては、ブスバーのバフ研磨装置・ワイマン（荷役助力装置）の導入をはじめ、電蝕防止対策、冷間圧延前予備研磨の強力化等の表面疵対策を実施し表面状態の向上を図っております。

お取引各社様のご指導ご鞭撻をよろしく願いいたします。

営業部長兼製造部長 櫻井 淳一

3. AZX612 マグネシウム合金、国土交通省の不燃材認定取得

当社製造のマグネシウム合金 AZX612 を素材とした薄板を用いて、アサヒサンコー株式会社 殿（本社 神奈川県相模原市）が 2013 年 11 月 12 日に国土交通省から不燃材認定を取得しました。

不燃材認定の条件は、建築基準法施工令第 108 条の 2 に基づいており、800 度で 20 分間加熱して、規定の塗装を施した試験片の表面に割れや防火上有害な変形が認められないことという条件を満たすというものでした。

この AZX612 マグネシウム合金薄板は、当社の双ロール鋳造方式（GTRC）で製造したものです。GTRC は従来の双ロール鋳造と比べて 10 倍以上の高速で鋳造が可能で有り、細かい等軸結晶が得られるといった利点があります。またさまざまな合金板を鋳造できることが最大の強みです。AZX612 ではカルシウムを 2% 添加してマグネシウムに不燃性を持たせています。

アサヒサンコー株式会社 殿は、吊り天井用エクспанションジョイントに不燃性マグネシウム合金 AZX612 を使用することを決定しました。このエクспанションジョイントにはバネの働きで吊り天井の揺れを吸収する機能があり、今後起こり得る地震発生時には、吊り天井の落下事故防止に効力を挙げることと思われれます。またマグネシウムはアルミに比べて強度があり、比重が軽いのが特徴です。

同社は、今後自社での施工案件のほかに、将来的には広く建築部材として一般ユーザーにマグネシウム合金を用いたエクспанションジョイントを販売することも計画しています。このマグネシウムを使用したエクспанションジョイントは日刊工業新聞、鉄鋼新聞、産業新聞に取上げられ大きな反響を呼んでいます。

比重がアルミの $2.7\text{g}/\text{cm}^3$ 比べて $1.8\text{g}/\text{cm}^3$ と小さい不燃性マグネシウムを建材に用いることで、建造物の全体重量を削減することができます。これによって、将来、特に高層ビルの建築コストの削減や省エネルギーといった効果も期待されます。

記者 田中



4. マグネシウム講演会

2013年11月22日（金）株式会社 JMC セミナールームにおいて、日本マグネシウム協会主催による技術講習会『マグネシウム合金の casting 及び 3D プリンター技術の動向』が行なわれました。この中で6つの講演があり、当社マグネシウム部所属の伊藤友美が「マグネシウム casting 圧延技術と製品開発動向」というテーマで約45分の講演を行ないました。

当社はマグネシウム合金薄板の開発を始め約10年が経過しましたが、開発以来取り組んでいる双ロール casting 法を用いた薄板製造の casting/圧延技術、板の特徴、今後の課題について話しました。現在、主力製品として販売している AZ61 合金薄板を実際に御使用いただいている例としてリフローパレット（プリント基板へのはんだ付けに使用する治具）や、建築材料として不燃認定を取得した Ca 添加型マグネシウム合金薄板の紹介をいたしました。

今後、展伸材の需要を拡大していくためには「コスト削減による販売価格の低下」「剛性を考慮した構造設計の必要性」「難燃性要求への対応」が重要であると考えており、それぞれの課題について今後の展望をご紹介します。

約40名の聴衆を前に、若干緊張した面持ちでしたが、講演終了後には名刺交換も求められ、その中から新たなお引き合いを頂戴し、現在商談を進めております。

聴衆の皆様には熱心に講演をお聞き頂き、後で伺った評判も大変良い講演でした。

伊藤は東京高専（東京工業高等専門学校）を卒業後、2006年4月に当社に入社。

マグネシウム部では、化学成分分析や組織観察、特性調査等素材分析の仕事に携わっており、近隣の大学の分析センターで技術指導も受けています。

当社では様々な合金を開発中で、彼女の果たす役割は非常に重要です。

当社では今後社内でも様々な分析を可能にする為、高度な分析機器の導入を計画しており

伊藤にも更なる活躍が期待されています。

記者 日吉



(写真) Mg 部 伊藤 友美

5. 国際マグネシウム展 in 東京ビッグサイト 2013 に出展

当社は、2013年11月6日（水）～11月8日（金）3日間にわたり開催された「国際マグネシウム展 in 東京ビッグサイト 2013」に出展しました。隣接して同時開催された「先端材料技術展 2013」とあわせて3日間で2万人以上の入場者数がありました。当社ブースにも多くのお客様が来場され、熱心に展示物をご見学いただきました。

今回の展示品のなかでもお客様の注目を集めたのは、2012年に当社が開発し、2013年に不燃材の認定を取得したマグネシウム合金薄板/AZX612でした。不燃性マグネシウム合金薄板/AZX612は様々な業界から注目されています。この不燃性マグネシウムはまずは建築業界に採用されましたが、自動車業界、鉄道車両業界、航空機業界からも使用を望む声が高まっています。

他にも従来から当社が製造しているAZ61を使用したマグネシウムの鍛造品、携帯電話の筐体をイメージした板からのプレス品、各種着色サンプルも展示しました。AZ61は他のマグネシウム合金に比べて耐食性、機械的強度で優れ、プレスなど加工性の高さも注目に値します。将来はAZ31に代わり板材の主流になることが望まれています。展示会は盛況のうちに終了いたしました。この展示会の会期中に当社を訪問されたお客先は150名以上に上りました。そのうちの数社様からは引合いをいただき、商談を進めています。

当社が開発した不燃性マグネシウムが広く日本の産業界から望まれていることを実感した3日間でした。

記者 田中



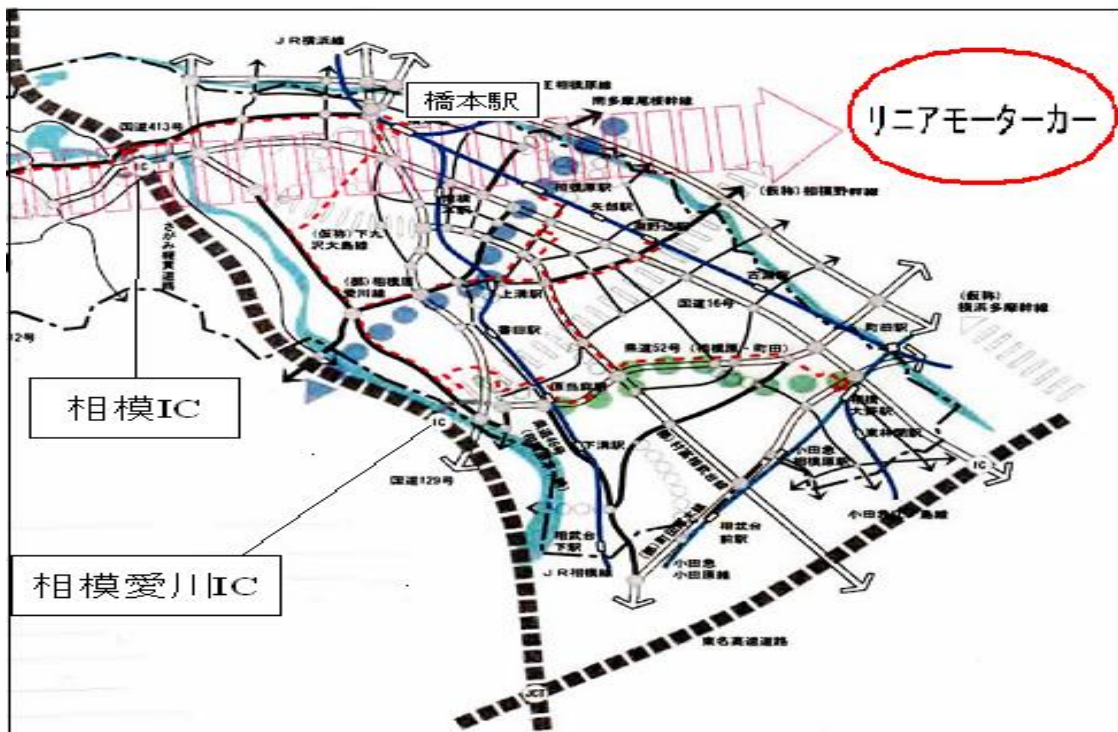
6. 相模原市について Part3

現在、相模原市には三つの大きなトピックスがあります。

実現時期が最も早いのは、相模縦貫道です。新たな高速道路、相模縦貫道が相模原市を南北に走ります。

2013年3月30日に圏央道の相模原愛川ー海老名間が開通しました。同じく圏央道の相模原愛川ー高尾山間が2014年6月に開通することが決まっています。これによって、東名高速道路と中央高速道路が高速道路で結ばれることとなります。相模原市にはいままで市内を縦断する高速道路がありませんでした。市北部に中央道の相模湖ICがありますが、市の中心部から離れています。2014年には、相模原ICが設置され相模原から東名、中央両高速道路へのアクセスが容易になります。

相模縦貫道開通に合わせて、相模原周辺に大型物流施設の建設が続きました。2013年だけで、相模相原IC付近には床面積10万㎡以上の大型倉庫が4施設が完成しました。



二つ目は米軍基地の一部返還です。

相模原駅東側に広がる在米相模原総合補給廠の一部返還が決定しました。時期は4-5年先になるといわれていますが、全214ヘクタール中約17ヘクタールが返還されることになりました。返還される跡地には商業施設への活用が検討されています。更に小田急線が唐木田駅からJRの相模原駅まで延びることが計画されています。



相模原駅東側の米軍基地と返還予定地

三つ目はリニアモーターカーの駅として橋本駅が計画されていることです。

2027年には、品川ー名古屋間でリニアモーターカーの開通が予定されています。

中間駅として、相模原市内に駅が設けられることが決まっています。神奈川県並びに相模原市は橋本駅周辺地域でのリニアモーター駅設置を国に要望しています。

橋本駅周辺には近年大規模な商業施設が相次いで出店していますが、リニア開通で更なる、大型商業施設の建設が予想されています。神奈川県の試算では、リニア駅設置に伴う経済波及効果は、1時間に上下各5本が停車した場合、橋本駅の利用者は年約1370万人、観光客は年約115万人増え、県内生産額は年約3200億円増える見込みです。地元有志で結成されたリニア中央新幹線橋本駅誘致促進同盟会の真田勉会長は「新横浜駅周辺以上の発展が展望できる」と話しています。

相模原市は産業面でなく文化面でも特色があります。特に大学など学術面の充実ぶりが際立っています。神奈川県にある41の大学のうち、7大学が相模原市にあります。相模原市内には、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の研究施設があり、宇宙開発の最先端の開発拠点として注目されています。この施設は平日であれば一般の見学も可能です。

また相模原市は首都圏にありながら、自然にも恵まれています。可住地面積が42%と低く、相模原市は観光資源に恵まれています。交通の利便性が高まることで、今後より多くの観光客が相模原市を訪問することも予想されます。スポーツでは、JFL所属のS.C.相模原のJ3参入も明るい話題です。

このように相模原市は広域交流拠点として経済、産業、文化、情報の機能を担うことが期待されています。

記者 田中



開通が待たれるリニアモーターカー

7. GKギャラリー

2013年10月22日（火）相模原ゴルフクラブにおいて第116回GK会を開催しました。

GK会は当社のお取引様との情報交換や親睦を深める事を目的としたゴルフの会です。会場の相模原ゴルフクラブでは10月3日～6日まで日本女子オープンゴルフ選手権が行なわれました。女子オープンと同じ東コースでプレーをしました。

女子オープンの開催時と比べるとラフも大分刈り取られていたものの、通常期よりはまだ長い状態でした。グリーンも速く難しい印象でしたが、皆さん楽しくプレーをされ、親睦を深める良い機会になったと思います。

優勝は片岡金属株式会社の片岡社長、第二位は西田金属株式会社の西田社長、第三位は土肥野金属株式会社の土肥野社長という結果でした。

次回のGK会は2014年春頃に開催の予定です。

記者 日吉



8. 相場情報『2014年第4四半期見通し』

相場情報

1. 電気銅建値推移

13年10月・・・760円スタート（10月平均 750.0円）

13年11月・・・750円スタート（11月平均 750.5円）

13年12月・・・760円スタート（12月平均 783.6円）

14年1月・・・820円スタート

2. LME在庫状況及び需給状況

LME指定倉庫在庫は、2013年1月初めの約32万tから徐々に増加し、6月には約68万tと倍増した。その後、少しずつ減少に転じ、12月終わりには約37万tとなっている。需要面を見ると、世界最大の銅需要国である中国の2013年のGDP成長率は2012年と同レベルの7.7%となる予測である。上半期の動きの鈍さから中国の需要鈍化も懸念され、銅の輸入量は年間では

2.3%減の454万tであったが、上半期の200万tに比べ、下半期は27%増の254万tと足元の需要は堅調である。中国の2013年地金消費量は895万tとなる見込み。米国や日本などの主要銅消費国では、景気指標の回復、特に日本では円安の影響も含め伸銅協会の生産量も増加している。ICSG(国際銅研究会)の地金消費量予測は2013年2050万t、2014年2140万tとなる見込み。供給面ではチリのコデルコや米フリーポート・マクモラン・カッパー・アンド・ゴールドなどの銅生産大手は相次いで増産を予定。モンゴルやチリ、インドネシアなどでの新規鉱山の開発や事業拡張を計画している。ただ鉱石の品位低下、鉱山での突発事故やストライキ等の操業面での制約が依然として懸念され、計画通りの予定で進捗するのには注視が必要と思われる。

ICSGの地金生産量予測は2013年2,090万t、2014年は2,200万tとなる見込み。

以上から2014年は需要増より供給増が強く供給過剰になると予測するが、鉱山の開発等には時間がかかり、足元の実需ではバランスすると予測する。

3. 為替の見通し

対ドルでは、12月初めに日銀の追加緩和期待から103円台まで円安が進行したが、その後は良好な米景気指標からFRBの量的緩和縮小の見方が高まり、日米株価共に調整色が強まった。その後、米与野党の財政協議進展や17～18日に開催された米FOMCでの量的緩和縮小決定、及び超低金利政策の長期化示唆や米景気指標の改善に好感を受け、日米株価の上昇が続き、年末にかけて一時105円台まで円安ドル高が進行した。1月に入り、多少円高に戻し、一時102円台まで円高が進んだが、その後は円安に戻し、104円台で推移している。

対ユーロでは、12月初めは140円前後で推移していたが、12月5日のドラギECB総裁会見を受けて、ECBの追加緩和観測が後退した事や主要先進国の株高等を背景にリスク選好の動きが続いた事から年末にかけて145円台まで円安ユーロ高が進行した。1月に入り、142円台まで反発し、140円台後半～143円台前半で推移している。

4. 相場の見通しと今後

足元のLME相場は12月の終値である\$7398/tから1月に入り\$7,300/t前後で推移している。今後の見通しは、2014年後半には供給面での過剰が予測されるが、足元は堅調な需要からも大幅な変動はなく、多少の変動で推移すると予測する。

短期予測(1M) LME \$7,100～7,500/t 為替 102～106円/\$

銅建値 760～840円/kg

長期予測(3M) LME \$7,000～7,500/t 為替 102～106円/\$

銅建値 750～840円/kg

記者 吉田 崇

